

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (294)

ミュー

夕食後、タモツ君のおじいさんがおばあさんと話しています。

「昔、金田一春彦先生のお話を聴く機会があって、日本語の音韻一覧を整理していたとき、ミュという拗音の用例を探すのに、苦勞なさったとおっしゃった。」

「長音のミューなら、すぐ見つかるのに？」

「いや、ミューだともっとみつけにくいんじゃないかな。」

「だって、ミュージックとかミュージアムとかって……。」

「それ、外来語だろ。ミューズもミュージカルもミュータントも……。」

「あ、そうですね。ミュータントって、突然変異体のことでしたっけ。」

「そう。先生は、人の名で大豆生田さんというのを見つけられた。オオマミュウダというんだって。今なら長音化して、オーマミューダになるのだろうけれど。」

外来語でも「シミュレーション」
(simulation) を
「シュミレーション」と間違えて
発音することがありますね。

「ミュ」や「ミュー」は、
今では定着した音だけれど、
本来日本人には発音し
にくい音なんだね。

